修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
1丁目3番地(幅ビル)
電話 (262) 2426・2932
振替 (東京) 36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

青少年はどんな旅行をするか

半数以上は観光に

修学旅行 ″日程が混みすぎる″

旅行ブームと青少年の関係はどうか。総理大臣官房広報室では昨年十二月、無作為抽出で全国の十五歳から二十四歳までの未婚者三千名を対象に調査を行なつたところ、一年間に約三割の者で旅行に出かけており、観光旅行が六割以上でいずれも団体旅行だつた。修学旅行の調べでは半数が日程の窮屈を訴えているのが目立つ。

①旅行者の割合いは青少年の六七%にあたり、過去一年間に一回だけの旅行が三一%、二回一七%、三回八%、四回四%で五回以上が六%もあった。

②階層別にみると東京都内に住んでいるものや、事務員、大学生など二十歳以上の者が多い。

③旅行の内容は観光旅行が最高で六一%、続いて修学旅行の二三%、帰省や墓参、親戚訪問などの二〇%が続いている。

④日数は一泊二日の四六%が第一位、夜行日帰りは案外少くてわずか二%だった。

⑤旅行先きは関東（東京を除く）が二五%で最高、続いて近畿二三%、九州は一八%で甲信越・北陸につぐ第四位。

⑥形態は団体旅行が圧倒的で五七%、友人・知己との旅行は四三%だった。

⑦時期は八月の四〇%、十月二四%、いちばん少ないのは二月でわずか七%にすぎない。

⑧交通機関は国鉄利用が八六%続いて貸切バスの四一%、路線バス三六%、私鉄電車が三二%、オートバイやスクター組も二%あった。

⑨宿泊先きは旅館、ホテルが七〇%、親戚や知人宅が二三%で第二位、山小屋と車中泊、船中泊もそれぞれ第三位で一三%を占めている。

⑩宿泊の決め方は、旅館などに予約したのは八二%、このうちあっ旋業者を通じたもの二四%。

⑪観光旅行でつかった費用は五千円が第一位で二一・九%、第二位七千円五・五%、つづいて三千円五・三%、一万円五・二%の順で五万円以上のものも〇・三%あった。

そのほか手軽な宿としてユースホステルや国民宿舎・国民休暇村青年の家などの利用も相当あるが、このうち「不満がある」としたものはユースホステルが六二・一%、国民宿舎、国民休暇村が二五・三%でいずれも浴室、寝具、食事の不備や不足で、とくに寝室が狭い、不潔、うるさい、寒いと訴えているのが目立った。

修学旅行について、「いってよかった」が八八・二%、「そうは思わぬ」が一一・三%、不明〇・五となっており、「不満」についての答えは①日程の混みすぎ四九・三%、②旅館が狭くサービスや食事がよくなかった三一・四%③乗物が混雑一九・一%、④案内人の説明がよくわからなかった一五・一%⑤見学先きが偏っており、面白くなかった一四・二%、費用が高かった二・六%で、「不満はない」が二〇・七%で、強行軍のつらさを如実に示している。

また、「過去三年ぐらいのあいだに修学旅行をしたか」に対しては「いった」が六三・八%で、「いかなかった」は三六・二%という結果がでている。

引率旅費を別枠で

富山　中学は二千五百円

【福井発】福井県では本年度から教員の修学旅行引率旅費を別枠で出すことを決め、六月の県議会に補正予算案として提出することになった。同案によると支給旅費は引率教員一人について小学校一千円、中学校二千五百円、高校五千円で総額は五百十二万一千円である。

いままでの修学旅行引率旅費は小、中校九千円、高校一万一千円で一般旅費として支給されていたが、旅費値上がりのため教員個人やPTAの負担が多くなり、県教組はじめ各方面から別枠で出してほしいと要望していたもの。別枠支給に踏み切ったのは北陸三県で初めてだという。

九十九里浜に国民宿舎誕生

【千葉】千葉県山武郡九十九里町真亀に国民宿舎「九十九里浜センター」が誕生、七月一日から営業を始める。小中学生や家族連れが対象で五百人収容できる。一泊二食つきで中学生七百円、小学生六百五十円。京成電鉄では海水浴シーズン中は京成千葉駅から同宿舎まで直通バスを運転する。

高校修旅の課題

高田治郎

○…こんにち高校生の修学旅行は、一つの問題点として取り上げられている。観光旅行になれすぎ、費用・日数ともに派手になったうえ、旅行先でいろいろな事故が起きているというのである。そのためか、ある県では、ついに旅行廃止に踏み切ったところがあると聞く。しかし、わたしは、多感な青春期にあるこれらの生徒たちに、健康的にして明るい夢をあたえることはなんとしても必要であると考える。

○…こんにちの修学旅行の主たる目的地が大都市に集中しているところに問題点がある。たんに神社・仏閣を見てまわるだけでなく、文科系・理科系を指向する生徒たちの希望を取り入れ、画一的な計画をさけることは可能であるし、あるときは雄大な山岳美に志をはせ、あるいは清らかな渓流に身心を洗うような、大自然に接触させるプランも必要であろう。

○…とにかく、旅行プランを業者まかせにすることなく、学校がわがもっと積極的に、しかも主体性を失うことなく、いかにして新しい教育的価値を開拓するかにかかっているといえよう。

（北海道道議会議員）

夏の剣道学校も

海や山へ団体訓練

小中学校のアンケート

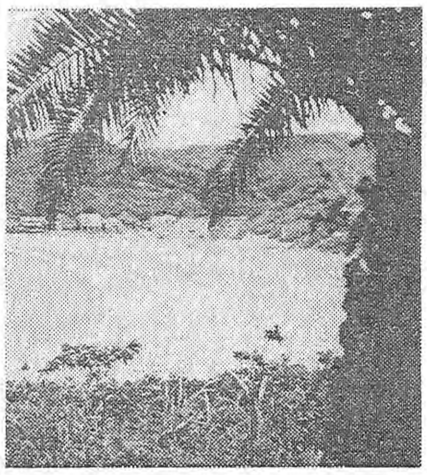
本紙では″夏休みはどんな計画で″というアンケートを無抽出で全国の小中学校各十校へ出し、その回答を求めたところ計画のない小学校二校を除いて各学校とも山や海へ、あるいは湖へと思い思いの企画で実施することが判った。

とくに林間、臨海学校は移動的な修学旅行や遠足では体験できぬ集団生活の訓練が体育とともに十分に行なわれるよう配慮されているようだ。臨海と林間を両方実施しているのは都会地に多い。（東京都品川区鮫浜小、同文京区誠之小）林間学校を主として夜営訓練を加えたもの（大阪市西成区長橋小）ダムのキャンプ場と学校プールを使うもの（富山市月岡小）や温泉の林間学校と校内宿泊をするもの（甲府市伊勢小）、臨海と湖畔（東京都目黒区菅刈小）があり臨海学校だけは東京都大島町の元町小で、さすがは海の島の学校だ。

学生はほとんどが高学年の五、六年生。日程と費用をみると誠之小の榛名高原二泊三日約二、二〇〇円、千葉県岩井海岸三泊四日約二、二〇〇円、鮫浜小の箱根仙石原三日間二、〇二〇円、岩井海岸四日間二、〇五〇円、菅刈小の山中湖畔三日間一、七五〇円、神奈川県逗子海岸三日間一、一〇〇円、長橋小の高野山二日間一、二〇〇円、元町小は地元の大島公園の黒潮小屋を使用して二日間三〇〇円となっている。

また、このほど東京都武蔵野市の境北小と宮城県牡鹿郡牡鹿町の谷川小が姉妹校として結ばれたので団地の子どもの多い境北小から漁業の町牡鹿町へ出かけ、先方かも東京へ出掛けてくるという珍しいケースもある。

中学校十校のうち林間、臨海の併用は三校（東京都足立区足立一中、同墨田区両国中、大阪市西区西中）の三校。林間学校だけ二カ所で開くのは芦屋市の山手中。漁業都市の焼津中は大井川の河原を利用する。都内の林間学校は奥多摩の御岳山（両国中）日光（足立一中）、宝塚沿線のユースホステルと明石公園を利用するのは芦屋中だ。大阪市西区の西中は奈良県の洞川と淡路島の江井海岸へ出かける。福井市の明倫中は大野市の勝原で林間学校を開く。校内のプールで水泳学校を設けるのは大阪市東淀川区の十三中、また、長崎県上県郡の西部中のように剣道の夏稽古と学校造園をする変わりだねもある。費用の最高は千葉県岩井海岸へ行く東京都墨田区両国中の四日間三千二百円である。



（写真は下田の外浦海岸）

″″″下田もカッパ天国″″″

静岡県下田町の外浦海岸ではことしも七月二十二日から八月十五日まで夏季臨海学園が開かれる。三泊四日で七期間とし、蓮台寺の旅館十三軒を使用する。会費は中小学生とも二千百円。すでに東京都内から港区十二校が全期間を予約したほか世田谷区、墨田区内の小中学校も申込んでおり、合わせて八千四百名の子どもの天国になりそう。

同海岸はことしの春、東京私立中高協会修学旅行調査会と財団法人全修協が実地調査をしたところ歴史や地理などの学習にも役立つところだと折紙がつけられた。

夏山の事故防止

都教委が高校に通達

東京都教委は夏山合宿訓練による遭難防止と、生徒の登山事故を防ぐため都立高校長あてにつぎのような通達を出した。①ザイルなどを使う岩登りは厳禁する②個人の装備の負荷量は男子三〇㌔、女子二〇㌔以内とする③訓練期間は体力、技術の程度、内容、経費を考え現地で七泊以内④引率、指導には顧問教師とこれに準ずる指導者と合わせて二名以上とする④生徒の個人的登山は必ず届けを出させ、責任の持てる指導者がいない場合は禁止する。

健康な夏を送ろう

西田剛

夏を迎えた。からだを鍛えるための夏である。それぞれのプランにしたがって、学校から家庭から海や山へ出掛けることが多いだろう。清浄な空気をいっぱいに吸った胸、輝く太陽に焼けた肌、そして心身ともに健康になり、さわやかな秋を迎えるのである。

けれども開放的な夏は、ともすれば解放になりかねない。暴飲暴食、夜ふかしなど、不規則な生活におちいることを戒めねばならぬ。これではせっかくの夏も無駄な時期となろう。また、海や山へ出掛けるにしても、周倒な用意と準備がなされなければ、不慮の災害を招くことになる。とくに青年の山の遭難がさいきん目立ってきているが、これも装備や天候の判断が不十分であり、加えていくらかの無謀さも手伝っているのが原因であろう。

海のばあい、本人の身体的な条件、現地の状況によっては思わぬ事故を引き起こすことになる。十分な心構えと準備があってこそ、夏の楽しさが味わえるのである。家庭も学校も子どもたちを見守り、安全第一をとくに銘記すべきである。

（文部省体育局長）

暑中お見舞い申しあげます

三井物産株式会社
森日出哉

弁護士
羽田忠義
東京都千代田区大手町日本ビル五三一号

日新商事株式会社
専務取締役　飯田延二郎
東京都千代田区丸の内丸ビル五一七区

株式会社シンコーメタリコン
社長　立石亨三
京都市山科四の宮

石原商事株式会社
社長　石原孝一
東京都板橋区中台一ノ二八ノ五

功徳工業株式会社
社長　石原孝一
東京都江東区亀戸町二ノ七二

石原合金工業株式会社
社長　川瀬福一
東京都千代田区西神田一ノ六

賛否が対立

修学旅行と文化財見学

〝理解できぬ〟反対派

賛成派 〝将来のためだ〟

修学旅行生に文化財を見せぬ、見せよの論議がさかんだ。生徒の理解が困難であり、とくに集団では無意味だといえば、一方はおとなでも判らぬ者もいる。子どもの将来のためにもぜひ見せるべきだという。さらにこれが修学旅行の実施問題にまで発展する。これに社寺側の〝文化財開放〟も維持経営がからんで実情はなかなか複雑である。

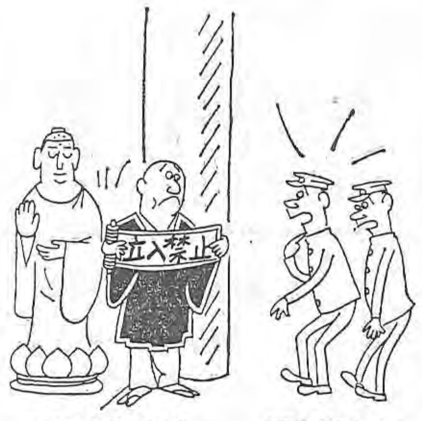
ことしの春、中尊寺入りした今東光氏は遊び半分の修学旅行にたいして同寺の参観を拒否すると宣言、話題を呼んだ。「ブタどもに真珠を与えるようなものだ。物見遊山などはもってのほか、そんな小僧は山外へほうり出す」と、例の毒舌ぶりを発揮、さらに「最近の実物教育が気にくわぬ。わけもわからぬ子どもに古文化財を見せてどうするのか」ときめつけている。また、東京都立西高の近藤正平校長は「自発的に文化財を研究しようという意志はほとんどない。文化財鑑賞はどうでもよい生徒が相当ある」と同校の実情を述べている。そして近藤校長は「五百人の生徒が暗い本堂で一体の仏像をとりまいて何の感懐がわくのか。苔寺のなかの細道を黒い制服で埋めつくしてどんな鑑賞ができるのか。少しは生徒の身にもなってほしい」と訴えている。同校では修旅のアンケートを行なったところ山へ行きたいが九〇%、関西方面が一〇%だった。結局、従来の修旅をやめてことしの秋、上高地へ野外宿泊へ出かけることにしたという。

写真・修旅生に説明するところもある。（奈良・薬師寺で）

これに対して全面的に修旅生を歓迎しているのは奈良の薬師寺である。副住職の高田好胤氏は十数年以来、修旅生に話をきかせることに専念し、副住職の仕事よりも修旅生の指導に生き甲斐を感じているようだ。同氏は「世界的に価値ある偉大な文化を作りあげた私たちの祖先の精神を明日の日本を作ってくれる子どもたちの心にしっかり植えつけておきたいのだ」といって、年間約十二、三万の修旅生に解説を続けている。「ある寺で修旅生にはわからないからといって庭を見せぬところもあるが、それではおとなたちが修旅生以上にわかるというのか」と反論、そして「多くの子どもに接してみると物見遊山をするおとな以上の理解力を持っている」という。都立西高の近藤校長も「薬師寺の人気は寺宝に対する尊敬と愛をそのまま若い世代に伝えようとする熱意が感じられるからだ」と率直に認めている。

文部省初中局中等教育課長の石川二郎氏は文化財見学以前の問題として修旅改善の私見をつぎのようにのべている。「大集団のかけ足強行日程を改め、雑踏する特定地を避けるべきだ。交通機関の発達によって修学旅行を一生一度の大旅行と考える必要はないだろう」と修学旅行を実施面で再検討すべきであると指摘する。

ところで総元締の文化財保護委員会普及課長金田智成氏はこういっている。「文化財は国民全部が見てこそ価値があるものだ。しかしそれは単なる観光に終わらぬことが必要であり、とくに修学旅行のばあいは十分に教育的であらねばならぬ。一部の社寺でその公開をはばんでいるというが、それには相当の理由もあり、推持と保存の点から当然のことといえよう。中尊寺のばあいは極論だが、文化財にたいする気持ちは察しうる。委員会としては文化財学習を樹立するため手引書の作成を準備しているが、これが完成すれば修学旅行との結びつきも円滑となり、教育効果もあがるだろう」



〝お断わりですゾ〟　（富士田笑一）

有料か無料か

果てぬ社寺の悩み

修学旅行や観光客で賑わいをみせている奈良の興福寺では境内が荒されるので鉄条網を張りめぐらし話題になった。寺側は「国が維持してくれないので自衛手段だ」といっており、これも古文化財を抱えている悩みのあらわれだ。

鎌倉で拝観料を取っているところは高徳院の大仏、一部有料の時宗廟があり、東慶寺や正則寺は無料だが参観を好まず、また坊を除いて開放している円覚寺などさまざま。「商業化するので開放したくないことと、維持のため料金をとりたいという複雑な気持ちなのが社寺の現実ではないか」と全修協の山本調研部長はいっている。

民族の誇りを種まこう

㊤

蛯原徳夫

私は生粋の東京人であり、また専門も外国文学の研究であるが、奈良や京都の古美術にひかれて関西へ赴任し、すでに十数年を大阪の地で過ごしている。この間たえず古社寺めぐりをつづけており、修学旅行の生徒諸君に出会うことも珍しくない。その際のもようの見聞きや、現地の人たちの意見を元に、いささか感想を述べてみたい。

中学生や高校生に古文化財の鑑賞は無理であるから、強いて引率してゆくことは無意味であるという意見には、私としてそのまま賛成はできない。古文化財の理解はいかにもむずかしい。しかし触れなければまったく無縁のままに終わる。触れたとて大部分の者には見過ごされるかもしれない。けれども見学した者全部が、なにも得るところなく通りすぎる、とも考えられない。たとえ深い理解がともなわなかったとしても、なにか澄んで美しくて尊いものの印象が、幾人かの心に水のように泌みるのではなかろうか。この印象が、日本人にとって真実で本質的なものの放射であるだけに、ひじょうに大切であると思えるその印象が潜在的にいつまでもひそみつづけ、生涯のある瞬間に、日本民族の誇りとなって意識化されることもありうる。または、失意や絶望のくるしみのさなかに、永遠の静けさや清らかさの救いとして、はるかな過去のなかから浮かびあがってくることがあるかもしれない。

そういうことは絶対にないと誰が言いきれるだろうか。そのころ私がまだ東京にいた終戦の当日、鉄カブトを背負ったモンペ姿で千駄ケ谷駅のホームに立ち、敵機のとどろきを空に聞きながら、敗戦の底知れない虚脱感に泌みきっていた時、ふいにその私を支えて救ってくれたものは、はるかな奈良の幾つかの古い仏たちのたたずまいであったことを思い出す。あれほどすぐれた文化財を生みだすことのできた民族が、どうしてみじめで無価値なものになり果てることがありえよう、というしみじみした実感なのであった。古文化財というものはそういう不滅の価値をもつものなのであり、そういう救いや慰めや教えのはたらきを秘めるものなのである。これだけの価値は容易にはつかめないかもしれない。しかしそれへの予感をひそかに植えつける可能性があると思えるのである。教育というものは眼前の効果だけを期待するものではないはずである。私たち自身の経験からいっても、成人してから後の生活のある瞬間に、それまではそれほどのものとは考えていなかった先生の言葉や態度が、切実な真実味をおびてふいに思い出されることがある。真実なもののもつ力を信じて、自分をつとめてその真実なものと合一させながら、現実に率直に生徒に接するということが、われわれ教師のつねにとるべき態度なのである。それがそのとき裏切られようと、あるいは無意味に無視されようと、われわれはただそれを信じ、ただそれをおこなうことが、必要なのである。

古文化財を若い生徒たちに鑑賞させる場合、大切なのは先生自身がそれを鑑賞しているということである。先生のもっていないものを生徒に与えることはできない。よく現地で見かける風景であるが、ガイド嬢に説明のすべてをまかせていたのでは生徒たちの見学には身がはいらないであろう。あるいは見学の対象物について、歴史的および美術的な解説の要点をプリントにして、あらかじめ生徒たちに配布してあるのかもしれない。しかしそれだけの用意では不充分であろう。なぜなら鑑賞は知識ではないからである。歴史的な見学にもじゅうぶんな意義があるとしても、さらにすすんで芸術的な鑑賞にもしたいものである。それには先生みずからが、古文化財を前にして、心をふるわせていなければならない。さもなければ生徒の心に、そのふるえの予感する伝えることができないであろう。引率教員のすべてにそれを求めることは無理かもしれない。しかしそういうものであることを意識して、できるだけ、その条件に近づけるようつとめることが大切である。

＝つづく＝

（筆者は大阪市立大学教授・文博・フランス文学）

瀬戸内海を走る海の社会科教室
修学旅行専用船
わかば丸
ふたば丸
修学旅行専用船（1000トン型・全船冷暖房完備）2隻は、ツートンカラーのスマートな外観で、等級区別のないモノクラス船室、学習室・休養室・清潔な食堂などがあり、又学習室には海のライブラリーが完備、「動く海の教室」としてご好評を頂いております。
●修学旅行専用船のお問合せは……
関西汽船
大阪（441）代表9161

NK鋼製プール
★軽いから工事は簡単
★夏でも冬でもすぐに
★完全防錆・防蝕のすばらしさ
★工事費はコンクリートより安い
功徳工業株式会社
東京都江東区亀戸町２—72
電話（681）２０９８・３６２５

修学旅行は
日本最大の豪華観光船「ふじ」で
団体専用船「ふじ」が昭和40年８月に就航しました。科学の粋を集めた画期的な最新鋭船です。生徒達の心にいつまでも残るユニークな修学旅行をお約束します。
みなさまのスケジュールにあわせて全国各地のどの港へもご案内できます。
完全冷暖房、明るい船室、豪華なサロン、ローンジ、広いプロムナードデッキ、娯楽室、浴室
ふじ
トン数……3,000トン型
速　力……20.04ノット
定　員……1,800名
Ⓐ 大島運輸株式会社
お問い合わせは
東京事務所
東京都中央区晴海町５の７
TEL （531）9211（代表）

近畿・中京への修学旅行は
時速 100キロ
全座席確保の名神ハイウェイ・
運賃最低廉　日本高速バスで
京都　神戸　大阪　名古屋
のりば
新大阪—名古屋　2時間50分　☆大　阪　新大阪駅正面
京　都—名古屋　2時間26分　☆京　都　京都駅西口
神　戸—名古屋　3時間31分　☆神　戸　神戸駅南口
☆名古屋　名古屋駅前 150米
お問合せ・お申込予約は
当社又は全国主要斡旋業者へ
大阪市天王寺区上本町６の１
日本高速自動車株式会社
Tel. 大阪771—6637～8 名古屋521～8371～2